

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203212		
法人名	医療法人 恵和会		
事業所名	グループホームあけぼの1階		
所在地	岡山県倉敷市児島小川9丁目486-1		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3370203212-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・お一人お一人に寄り添い、個々の能力に合わせた援助に努める様に心掛けています。 ・日々、楽しく過ごせる様に四季に合わせた創作活動・余暇活動・行事に配慮し取り組んでいます。 ・職員は元より入居者様も明るく、ホーム内の雰囲気良く、見学に来られた方には好評です(現在はコロナ感染の影響で見学はお断りしております) ・母体が医療機関の為、医師・看護師との連携を図りながら健康管理に努め、定期的に適切な検査・治療が受けられる環境になっています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>前回の外部評価の結果を受け、「家族と一緒に入居者を支えていく関係作り」を目標に挙げ、取り組んできた。ユニット全体の「あけぼの便り」と共に、個人の生活の様子、変化や病状を知らせる手紙を送付している。現状理解を深めてもらい、積極的にコミュニケーションを図るよう努めている。面会に制限がある中、家族から「様子が良く分かり安心できる」と評価されている。介護計画に添っての実施状況のチェック、評価等の記録が丁寧になされている。午前・午後に分類したり、前日との比較を記入したりと、状況に合わせて用紙を変える等の工夫をし、進捗状況が把握しやすくなっている。日々の記録を基に、現状に即した介護計画の作成に繋げている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に法人の理念やホーム独自の目標を掲示し、それに基づいた方針で地域の中で、その人らしく居られる様に、ご本人・ご家族様を含め支援を行い、尊厳を保ち支援を行っています。	理念から簡潔に「思いやり・支え合い・助け合い」を目標に挙げ、理念に添った支援に努めている。職員全体で考えた目標であり「その人らしく生活できるようにゆとりを持って介護に努める」という基本姿勢は職員間に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、地域の行事に参加していたが、今年度はコロナ感染の影響で行事の中止があったので交流は行えていない。	町内会に入会し、顔馴染みの近所の住民と挨拶を交わしている。隣人が季節の野菜や、果物を持ってきてくれることもある。地区の情報は届いており、去年は通りすがりではあるが祭りの神輿を見ることができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方との話す機会を設け相談を受けた場合は認知症について支援方法等をアドバイスを行う様にしているが、今年度は、コロナ感染の影響で会議の開催が行えていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ感染の影響で、現在は開催出来ていない。	市指導課職員・地域包括支援センター職員・民生委員・他グループホーム管理者・母体病院理事長・院長等の参加を得て開催されていた。月1回の職員会議で身体拘束・虐待防止の為の勉強会を開いている。	運営推進会議を再開する準備を整えている。参加メンバーや家族に議事録の送付を検討して欲しい。現状や取り組みを報告し意見を聞くことで、支援の質の向上に繋がると思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて市と連携し、意見・助言・協力を得てサービス向上に努めている。	市担当者には法改正時の質問や、コロナ対策について等の相談をし、助言を受けている。地域包括支援センター職員から紹介され、入居を前提とした見学に訪れる人もいる。情報を共有し、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯ブザーを設置し施錠は行わない様にしている。コロナ感染の影響で外部研修は行えていない為、ホーム内で行い知識を深める様に努めている。	言葉や態度に気を配り、抑圧感を招かぬよう職員間で注意を促している。車椅子からの立ち上がり不安がある時、利用者の行動を常に意識し、見守り体制を強化している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待に繋がるかを職員間で話しあったり、言葉使いに注意したりし、虐待に繋がらない様に職員全員が日頃から意識している。コロナ感染の影響で外部研修には参加出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご相談があれば対応している。以前、後見人になられた司法書士さんとも定期的に連絡を取り、いつでも相談できる関係を保っているが、今後、その方から職員へ詳しく研修を受けられる様に予定を組んでみたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い疑問等にお答えし、納得された上でサービスを開始している。改定時には随時、説明し承諾して頂き、書面でも残している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	例年行っている家族会はコロナ感染の影響で中止し、面会規制等もあり、電話での状況報告・毎月のお手紙で近況報告を行い、要望等もお伺いし反映できるように務めている。	昨年度の目標達成計画に「家族と一緒に入居者を支えていく関係作り」を挙げ、毎月の手紙で家族が安心するような些細な出来事も伝え、コミュニケーションを図るよう取り組んできた。家族から感謝の意が伝えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は随時、職員の意見・要望を聞くように心掛け、毎月のケア会議でも職員間の意見交換が行える様に配慮している。必要に応じて代表者へ報告する様にしている。	管理者は自分の思いを伝えてくれる職員が多いと感じている。長年一緒に取り組んできた職員として良好な関係性が築けている。記録の検討・改良が職員意見を基に行われた。浴室の手すりを増やすことが提案され、増設されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の就業時間・業務態度の把握に努め、必要に応じて意見・要望を聞くようにし、内容によっては代表者へ伝えるようにしている。非常勤者へは勤務可能時間に合わせた勤務時間に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度はコロナ感染の影響で外部研修には参加出来ていない。個々の能力を把握しながら、必要に応じて技術向上に繋がる様な指導に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナ感染の影響で交流会・訪問等は行っていないが、必要に応じて個々で連絡を行い情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規の方については、サービス導入前には情報収集・把握に務め、日々の生活でコミュニケーションを図り、ご本人の意想を汲み取り安心した生活が継続出来る様に支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス提供前にご家族の不安な思い・意向をお伺いし、安心して頂ける様に心掛け、入居後、ご家族へは必要に応じて連絡を取り、積極的にコミュニケーションを図り、親近感を感じて頂ける雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族のご意向をお伺いし、優先順位を見極め、その時々に必要なサービスに配慮し提供する様に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事・出来ない事・得意分野を把握し、個々の能力に合わせた個別対応を行い、コミュニケーションを図る事で信頼関係が築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度はコロナ感染の影響で面会が難しい状況にある。月1回のお便りには個々に合わせた内容で近況報告を記し配布している。ご家族とは感染対策を図り疎遠にならない程度に来訪して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染の影響で面会・外出が殆ど行えていない。外出時は、人込みを避け、外出先の検討を図っている。遠方からの贈り物が頂いたら、お礼の電話をしていただき、関係が途切れない様に支援している。	感染拡大が抑えられている現在、帰宅願望のある人や、重度化した利用者の家族に「今なら良いですよ」と声をかけ、面会をしてもらっている。家族の協力を得て外出し、自宅に戻る人もいる。職員が間に入り、円滑な交流ができるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々が孤立しないように席順に配慮し、職員が間に入る事で入居者様同士が楽しく作業して頂いたり、楽しく会話できるような雰囲気作りに努めているが、徐々に認知症進行・難聴等が強くなり困難な時が増えて来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、気軽に相談出来る様な関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を傾聴し思いを受け止め、可能な限り思いに添える様に努め、入居者様同士の会話にも耳を傾け、職員が聞けてない内容の時は、職員間で情報を共有し必要に応じて問題解決に努めている。	「家に帰りたい」と聞き取れば、家族に声をかけ会いに来てもらっている。「買い物に行きたい」との思いには、コロナ禍の現状を話し、納得してもらっている。話を聞くだけでなく、肩もみ等のスキンシップを図りながら、仕草や雰囲気から判断することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入前にご家族から必要な情報を提供して頂き、入居後は日々の会話の中からも生活歴を把握するように努め、意味が解らない時はご家族にお尋ねし、職員間で情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本、お好きな場所でお好きな様に過ごして頂き、個々の生活パターンの把握に努め、日々の様子等を随時、記録に残し職員間で情報を共有し、ケアに反映させるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活を観察し問題点があれば、毎月のケア会議で現状に合ったケアの見直しを行い、必要に応じてご家族に相談し、介護計画に反映させている。緊急を要する際には当日職員と管理者が話し合い対応している。	ケアプラン作成を前に、職員全員が利用者の現状を考察し、各自の思うケアプランを書面で提出している。作成段階から関り、計画を意識した支援に取り組むことができている。実施状況を細かく記録に残し、次回の作成に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子・会話・気づき等を記録したり、知り得た情報は必要に応じて連絡ノート等を活用し職員間で共有し、ケアや介護計画に活かすようにしているが、介護度の低下に合わせて記録出来る時間が少なくなって来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせてケアを行い、ご家族・医師・看護師等と連携を取り、職員間でも話し合い、広い視野で入居者様のニーズに対応できる様に努め暮らしやすい環境になる様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、コロナ感染の影響で外部との関係作りが行えていない。食材は地元の業者を活用し地産地消に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス開始前にかかりつけ医の確認を行い、ご本人・ご家族の意向に合わせている。緊急時、他の医療機関を受診する際にも、かかりつけ医・ご家族と密に連絡を取り対応している。	往診対応もあるが、五感刺激と運動を兼ね、週2回定期受診している。母体病院の医師・看護師が毎日訪問してくれ、利用者・職員共に心強い。他専門科を受診する利用者もおり、複数の医療機関と連携し、医療面での安心を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、入居者様の体調・状態報告を行い、医療的な相談・指導を受け、異常の早期発見に努め、適切な対応が出来るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人・ご家族が安心して治療が受けられるよう些細なことでも主治医に報告・相談しご家族が入院先に話せない事でも相談を受けたら、状況により病院へ報告・対応を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご本人・ご家族に暫定的なご意向をお伺いし、終末期の際には、ご本人の意向を踏まえた上でご家族・主治医・管理者が、今後の治療方針を話し合い書面に残し、その後、職員間で話し合い、内容に合わせた介護計画を立て支援に努めています。	家族と医療関係者との間で「延命治療」の概念に差が生じないように、状況に応じて家族に分かり易く説明をしている。重度化や終末期に向けたケアや看取りの経験を積んできており、そこから得た教訓や反省を次のステップに活かせるように体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは整備しているが定期的な訓練は行っておらず個々に勉強が出来るように書籍を設置している。解らない事は医師・看護師に聞いたりしている。日々、職員間で適切な対応が出来る様に話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・防災マニュアルを整備し定期的に入居者様参加型の避難訓練を年2回行い、合わせて防災訓練も取り入れている。「いざ」と言う時は近隣の方へ協力依頼をしている。	5月は火災想定避難訓練を行った。火災報知機の誤作動があったので、業者から設備点検・火災報知機やスプリンクラーの扱い方の研修を受けた。火災や土砂災害等で避難場所を変更する必要がある、マニュアルを見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、言葉使い等に配慮している。また、個々の性格等を把握し、個々に合わせた伝わり易い言葉を使う様に心掛け、意思疎通が難しい方へは、その方の仕草等を模索しケアを行っている。	丁寧語を使うようにしているが、それだけでは冷たい印象になる為、真剣な話、親しみを持った会話等、内容に合わせた言葉の掛け方を考えている。難聴の人が多く、プライバシーに関わる内容の時には、筆談で伝えることもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気兼ねなく意思表示・自己決定が出来る様な雰囲気作りに努め、その時々に合わせて選択肢を幾つか出して決定して貰い、職員本位にならないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課は設定しているが、個々の、その時々に合わせてペースで家庭的な雰囲気生活が送れる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせた整容道具を用意し、ご本人にお任せし服装も可能な限り個々で選んで頂き、乱れがあれば支援を行っている。訪問理美容を活用しているが今年度はコロナ感染の影響で利用回数が減っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を把握しメニューに取り入れている。台所作業は1対1で行いコミュニケーションを密に図り、食事準備・片付け等のお手伝いも率先してお手伝いされる方もおられ、皆さんで協力して頂きながら日々を過ごしています。	担当職員が献立を考え、季節の食材を使用した美味しい家庭料理が提供されている。希望のメニューを取り入れたり、健康に良い食べやすい豆腐料理を加えたりしている。行事の時に外注の弁当で、変化を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー作成時に、肉・魚・野菜が偏らない様に考慮している。個々に合わせた水分量・食事形態・食事量・器等に配慮し、摂取量を記録し体調管理に努め摂取が難しい時は、代替え・時間帯・高カロリー剤の活用等に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に歯磨きの声掛け・磨き残しの確認を行い、義歯使用の方には、夜間の義歯の管理を行い、歯科治療が必要な方には、ご家族と相談し歯科受診・往診を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	朝食時に飲める方には、ヨーグルトを提供し腸内活性に努め、個々のトイレ使用の状況の把握に努め、必要に応じてトイレ声掛けを行い、排泄状況を記録し排泄パターンの把握に努めている。	各居室にトイレがあり、排泄のプライバシーは守られている。職員はさりげなく排泄確認を行い把握するようにしている。家族の負担を減らす為にも、排泄用品の検討を細かく行い、安価なネット通販を利用することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し、食事メニュー・乳酸菌の摂取に配慮し、日々、体操を行って頂く事で予防にも取り組み、必要に応じて主治医と連携をとり、個々に合った排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員都合で、入浴日・時間が決まり、定期的な入浴が出来ない日があるが、「もう少し後で」等と言われる方には、可能な限り対応しているが、基本、清潔保持に努めています。	週3回の入浴を目安に支援している。特に入浴日は決めず、状況に応じて柔軟に対応している。皮膚の保湿に留意し、備え付けの保湿剤を塗布し、乾燥を防いでいる。寛いだ気分で入浴できるように馴染みの職員が介助するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせ、居眠りが強い時は、自室での臥床を促し、夜間、空腹の訴え時には状況を見ながら、ホットドリンク・少量の夜食等を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤説明書を専用ファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしている。内服薬変更時には、職員間で情報共有できるようにしている。体調変化時には随時、主治医へ報告・指導を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のコミュニケーションの中で、個々の得意分野を把握し家事作業・余暇・創作活動等を行って頂いている。参加後は感謝の気持ちを伝える様に心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ感染の影響の為、外出は控えて頂いてますが、日々、外気浴を目的に中庭へ出て頂いている。気分転換を目的にお花見は人込みを避けての計画を検討し実施した。	人出の少ない場所を検討し、花見ドライブに出かけた。秋のドライブも計画している。定期受診は五感刺激の機会と捉え、徒歩や車椅子で出かけている。気分転換を図り、日常生活動作のリハビリとしても活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感染の影響で買い物に出かける事はない。身の回りの物を購入した際には、お預かりしているお小遣いで支払い・記帳し、ご家族来訪時にお小遣い帳を確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様宛に手紙・荷物等が届いた時は、ご本人からお礼の電話が出来る様に支援しており、ご本人が電話を希望される時は、随時、対応出来る様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様同士が不快な思いにならないようにテーブル配置・席順に配慮している。入居者様が手作りされた作品や、行事風景の写真等、見える場所へ飾り工夫している。日々、中庭で外気浴を行って頂ける様にしている。	テラスに続く大きな掃き出し窓があり、明るく開放的な空間となっている。創作活動として、職員と一緒に作成した作品が展示されている。子供っぽくならないようにと考え、落ち着いた雰囲気でも季節を感じることもできる。行事の時の笑顔の写真も掲示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一角に和室・ソファーがあり、個々で希望される場所で過ごして頂いている。居室での入居者様同士の会話も行われている。ほぼ席は決まっているが、気が合う方同志が座って頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自宅で使っていた家具・生活用品等を持参して頂き設置している。個々にあった環境作りに配慮している。	その人らしく居心地よく過ごせる居室作りに取り組んでいる。冷蔵庫、ポット、ソファー、アイロン等を持ち込んでいる人もいる。自分の部屋として掃除や、シーツ交換を手伝う人もいる。安全な動線に配慮し、ベッドの位置を決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は安全に移動しやすい様に家具・ベッド等の配置・シルバーカーの設置等に配慮し、タンスには衣類の区別が解る様にシールを貼り、シルバーカー使用者には待機場所の把握が出来る様な工夫を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203212		
法人名	医療法人 恵和会		
事業所名	グループホームあけぼの1階		
所在地	岡山県倉敷市児島小川9丁目486-1		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&Jigvsvocd=3370203212-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・お一人お一人に寄り添い、個々の能力に合わせた援助に努める様に心掛けています。 ・日々、楽しく過ごせる様に四季に合わせた創作活動・余暇活動・行事に配慮し取り組んでいます。 ・職員は元より入居者様も明るく、ホーム内の雰囲気良く、見学に来られた方には好評です(現在はコロナ感染の影響で見学はお断りしております) ・母体が医療機関の為、医師・看護師との連携を図りながら健康管理に努め、定期的に適切な検査・治療が受けられる環境になっています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に法人の理念やホーム独自の目標を掲示し、それに基づいた方針で地域の中で、その人らしく居られる様に、ご本人・ご家族様を含め支援を行い、尊厳を保ち支援を行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、地域の行事に参加していたが、今年度はコロナ感染の影響で行事の中止があったので交流は行えていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方との話す機会を設け相談を受けた場合は認知症について支援方法等をアドバイスを行う様にしているが、今年度は、コロナ感染の影響で会議の開催が行えていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ感染の影響で、現在は開催出来ていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて市と連携し、意見・助言・協力を得てサービス向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯ブザーを設置し施錠は行わない様にしている。コロナ感染の影響で外部研修は行えていない為、ホーム内で行い知識を深める様に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待に繋がるかを職員間で話しあったり、言葉使いに注意したりし、虐待に繋がらない様に職員全員が日頃から意識している。コロナ感染の影響で外部研修には参加出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご相談があれば対応している。以前、後見人になられた司法書士さんとも定期的に連絡を取り、いつでも相談できる関係を保っているが、今後、その方から職員へ詳しく研修を受けられる様に予定を組んでみたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い疑問等にお答えし、納得された上でサービスを開始している。改定時には随時、説明し承諾して頂き、書面でも残している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	例年行っている家族会はコロナ感染の影響で中止し、面会規制等もあり、電話での状況報告・毎月のお手紙で近況報告を行い、要望等もお伺いし反映できるように務めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は随時、職員の意見・要望を聞くように心掛け、毎月のケア会議でも職員間の意見交換が行える様に配慮している。必要に応じて代表者へ報告する様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の就業時間・業務態度の把握に努め、必要に応じて意見・要望を聞くようにし、内容によっては代表者へ伝えるようにしている。非常勤者へは勤務可能時間に合わせた勤務時間に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度はコロナ感染の影響で外部研修には参加出来ていない。個々の能力を把握しながら、必要に応じて技術向上に繋がる様な指導に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナ感染の影響で交流会・訪問等は行っていないが、必要に応じて個々で連絡を行い情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規の方については、サービス導入前には情報収集・把握に務め、日々の生活でコミュニケーションを図り、ご本人の意想を汲み取り安心した生活が継続出来る様に支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス提供前にご家族の不安な思い・意向をお伺いし、安心して頂ける様に心掛け、入居後、ご家族へは必要に応じて連絡を取り、積極的にコミュニケーションを図り、親近感を感じて頂ける雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族のご意向をお伺いし、優先順位を見極め、その時々に必要なサービスに配慮し提供する様に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事・出来ない事・得意分野を把握し、個々の能力に合わせた個別対応を行い、コミュニケーションを図る事で信頼関係が築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度はコロナ感染の影響で面会が難しい状況にある。月1回のお便りには個々に合わせた内容で近況報告を記し配布している。ご家族とは感染対策を図り疎遠にならない程度に来訪して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染の影響で面会・外出が殆ど行えていない。外出時は、人込みを避け、外出先の検討を図っている。遠方からの贈り物が頂いたら、お礼の電話をしていただき、関係が途切れない様に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々が孤立しないように席順に配慮し、職員が間に入る事で入居者様同士が楽しく作業して頂いたり、楽しく会話できるような雰囲気作りに努めているが、徐々に認知症進行・難聴等が強くなり困難な時が増えて来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、気軽に相談出来る様な関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を傾聴し思いを受け止め、可能な限り思いに添える様に努め、入居者様同士の会話にも耳を傾け、職員が聞けてない内容の時は、職員間で情報を共有し必要に応じて問題解決に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入前にご家族から必要な情報を提供して頂き、入居後は日々の会話の中からも生活歴を把握するように努め、意味が解らない時はご家族にお尋ねし、職員間で情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本、お好きな場所でお好きな様に過ごして頂き、個々の生活パターンの把握に努め、日々の様子等を随時、記録に残し職員間で情報を共有し、ケアに反映させるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活を観察し問題点があれば、毎月のケア会議で現状に合ったケアの見直しを行い、必要に応じてご家族に相談し、介護計画に反映させている。緊急を要する際には当日職員と管理者が話し合い対応している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子・会話・気づき等を記録したり、知り得た情報は必要に応じて連絡ノート等を活用し職員間で共有し、ケアや介護計画に活かすようにしているが、介護度の低下に合わせて記録出来る時間が少なくなって来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせてケアを行い、ご家族・医師・看護師等と連携を取り、職員間でも話し合い、広い視野で入居者様のニーズに対応できる様に努め暮らしやすい環境になる様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、コロナ感染の影響で外部との関係作りが行えていない。食材は地元の業者を活用し地産地消に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス開始前にかかりつけ医の確認を行い、ご本人・ご家族の意向に合わせている。緊急時、他の医療機関を受診する際にも、かかりつけ医・ご家族と密に連絡を取り対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、入居者様の体調・状態報告を行い、医療的な相談・指導を受け、異常の早期発見に努め、適切な対応が出来るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人・ご家族が安心して治療が受けられるよう些細なことでも主治医に報告・相談しご家族が入院先に話せない事でも相談を受けたら、状況により病院へ報告・対応を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご本人・ご家族に暫定的なご意向をお伺いし、終末期の際には、ご本人の意向を踏まえた上でご家族・主治医・管理者が、今後の治療方針を話し合い書面に残し、その後、職員間で話し合い、内容に合わせた介護計画を立て支援に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは整備しているが定期的な訓練は行っておらず個々に勉強が出来るように書籍を設置している。解らない事は医師・看護師に聞いたりしている。日々、職員間で適切な対応が出来る様に話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・防災マニュアルを整備し定期的に入居者様参加型の避難訓練を年2回行い、合わせて防災訓練も取り入れている。「いざ」と言う時は近隣の方へ協力依頼をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、言葉使い等に配慮している。また、個々の性格等を把握し、個々に合わせた伝わり易い言葉を使う様に心掛け、意思疎通が難しい方へは、その方の仕草等を模索しケアを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気兼ねなく意思表示・自己決定が出来る様な雰囲気作りに努め、その時々に合わせて選択肢を幾つか出して決定して貰い、職員本位にならないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課は設定しているが、個々の、その時々に合わせてペースで家庭的な雰囲気生活が送れる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせた整容道具を用意し、ご本人にお任せし服装も可能な限り個々で選んで頂き、乱れがあれば支援を行っている。訪問理美容を活用しているが今年度はコロナ感染の影響で利用回数が減っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を把握しメニューに取り入れている。台所作業は1対1で行いコミュニケーションを密に図り、食事準備・片付け等のお手伝いも率先してお手伝いされる方もおられ、皆さんで協力して頂きながら日々を過ごしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー作成時に、肉・魚・野菜が偏らない様に考慮している。個々に合わせた水分量・食事形態・食事量・器等に配慮し、摂取量を記録し体調管理に努め摂取が難しい時は、代替え・時間帯・高カロリー剤の活用等に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に歯磨きの声掛け・磨き残しの確認を行い、義歯使用の方には、夜間の義歯の管理を行い、歯科治療が必要な方には、ご家族と相談し歯科受診・往診を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	朝食時に飲める方には、ヨーグルトを提供し腸内活性に努め、個々のトイレ使用の状況の把握に努め、必要に応じてトイレ声掛けを行い、排泄状況を記録し排泄パターンの把握に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し、食事メニュー・乳酸菌の摂取に配慮し、日々、体操を行って頂く事で予防にも取り組み、必要に応じて主治医と連携をとり、個々に合った排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員都合で、入浴日・時間が決まり、定期的な入浴が出来ない日があるが、「もう少し後で」等と言われる方には、可能な限り対応しているが、基本、清潔保持に努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせ、居眠りが強い時は、自室での臥床を促し、夜間、空腹の訴え時には状況を見ながら、ホットドリンク・少量の夜食等を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤説明書を専用ファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしている。内服薬変更時には、職員間で情報共有できるようにしている。体調変化時には随時、主治医へ報告・指導を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のコミュニケーションの中で、個々の得意分野を把握し家事作業・余暇・創作活動等を行って頂いている。参加後は感謝の気持ちを伝える様に心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ感染の影響の為、外出は控えて頂いてますが、日々、外気浴を目的に中庭へ出て頂いている。気分転換を目的にお花見は人込みを避けての計画を検討し実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感染の影響で買い物に出かける事はない。身の回りの物を購入した際には、お預かりしているお小遣いで支払い・記帳し、ご家族来訪時にお小遣い帳を確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様宛に手紙・荷物等が届いた時は、ご本人からお礼の電話が出来る様に支援しており、ご本人が電話を希望される時は、随時、対応出来る様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様同士が不快な思いにならないようにテーブル配置・席順に配慮している。入居者様が手作りされた作品や、行事風景の写真等、見える場所へ飾り工夫している。日々、中庭で外気浴を行って頂ける様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一角に和室・ソファがあり、個々で希望される場所で過ごして頂いている。居室での入居者様同士の会話も行われている。ほぼ席は決まっているが、気が合う方同志が座って頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自宅で使っていた家具・生活用品等を持参して頂き設置している。個々にあった環境作りに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は安全に移動しやすい様に家具・ベッド等の配置・シルバーカーの設置等に配慮し、タンスには衣類の区別が解る様にシールを貼り、シルバーカー使用者には待機場所の把握が出来る様な工夫を行っている。		